

くまざさ

第43号

発行
釧路湖陵同窓会
くまざさ編集委員会

発行日
平成15年8月10日

印刷所
藤田印刷(株)



目次

教職員湖陵会……………2頁
当番期紹介・会券今昔あれこれ……………3頁
誠愛勇から・青春譜・湖陵ヶ丘…4・5頁

活躍する卒業生……………6頁
学園だより'03……………7頁
事務局だより・編集後記……………8頁

釧路教職員湖陵会会長

名 畑 英 一
(湖陵14期)



釧路教職員湖陵会の結成は、昭和30年のことです。初代会長は故

まもなく結成50周年を迎える 釧路教職員湖陵会

のしがらみによる閉鎖感から抜け出し、戦後の新教育の振興のため

鈴木徳一先生でした。創立の趣旨は、「釧路の教育の大振興を期するため郷土釧路の土地で育った私達が大同団結を図るとともに、母校を積極的に応援し、且つ会員同士の親睦を深めよう」(結成40周年記念誌大竹会長記)ということとでありました。文中の「大同団結」は、当時の教育界

にという熱い使命感と、当時の釧路教育界の意識変革を今に伝えております。

現在、現職会員208名、OB会員50名を有し、研修、親睦を図っています。幸いにして、会の運営についてはOB会員のお知恵とお力をお借りできるのが我が会の強みであります。

昭和61年度より、研修する教職員湖陵会へと進展させる事業が組み込まれました。この事業は、慣例として、湖陵出身者で教職員以外の職の方にご講演いただき、教

郷土に育ち後輩を育てる 「大同団結」し親同窓会支えた

師として社会的な視野を広げる資質向上の一助になることを期しております。

昨年4月より、新しい教育過程のもと「総合的な学習の時間」が導入されました。子ども一人一人が自分なりに課題を持ち、いろいろな情報を駆使したり体験を通して学びます。当然、子ども達の目は外に向かいます。郷土、環境、福祉、国際理解など幅広い分野が学習素材となります。教師は、教えるのではなく支援していく立場になります。支援するためには、

教師は、各分野についてのポリシ1をしっかり持っていなければなりません。この研修事業は、今、教師が必要としている資質向上に

応えるものと自負しているところ

です。ちなみに、昨年の研修は、釧路商工会議所事務局長高橋滋様(湖陵20期)を講師にお迎えし「釧路の経済あれこれ」と題して、釧路経済の現状と課題、活性化策として裏話なども加わり興味深い講話となりました。

釧路管内の教育理念は、「釧路の風土に学び、心豊かにたくましく生きる力を培う教育の創造」です。郷土の発展の基盤は、教育に

あります。私達郷土で育てられた者が、郷土の後輩を育てることは、教師冥利に尽きるものがあります。50周年を迎えるに当たり、結成の熱意を継承し、新たな課題を想定しながら会の充実を図って参りたいと考えております。

年の同窓会には、ピンク券を発行してご招待というお心遣いを頂いております。このたびの母校の90周年式典には、一つの同窓会としてお招きいただきました。我が親同窓会は、財政的な基盤が弱い中でご熱心な活動をされていることに深く敬意を表しますと共に、力強い母校の応援団にご発展されることを心からお願ひ申し上げます。(釧路市立寿小学校長)

部活に同窓生の活用も

来年開局50年となる湖陵高放送局が今年も道高校文化連盟第27回全道高校放送発表会兼、NHK杯釧路地区大会でエントリーした5部門すべてで最優秀賞をとった。

部門はアナウンス、朗読、ラジオドキュメント、創作ラジオドラマ、テレビドキュメント、創作テレビドラマ、研究発表。

44年前に放送顧問の室田浩志先生の依頼で、私が指導に行った。創作ラジオドラマ「列車の声」を教え、民放の東北・北海道大会で予選を勝ち抜いていく。

当時も野球応援は全校生徒で出掛けたが、文科系の授業中の部員外出は許されない。主役さえ辞退する騒ぎさえあり、苦勞した記憶がある。(NHK劇団に入り放送

作家を志した私には残念な思い出)

後年「釧中物語」を取材中も、「後輩の指導をやりたくても、母校がいやがって悔しい思いをした」と多くの同窓生が云っていた。今年1月に新聞部顧問木原千枝先生から頼まれて教えに行った。部室も整った新校舎は恵まれている。なにしろ広い校舎なのだ。

同窓生と在校生の交流はプラスになれ、決してマイナスにはならない。各専門の社会人は教師と別の意味で活用されるべき、教諭以外の指導をタブー視してはならない、と思うのだが……(奥田記)



当期紹介

我が誇るべき三十一期

湖陵三十一期中山 朗生（釧路市役所勤務）

「皆さん写真撮りますよ」の時には笑顔だった大先輩たちに、「はい、一枚五百円いただきます。」と言った途端、「そんなんだったらもつとまぐ撮れや」と厳しくご指導いただきながら初めての当番期でポラロイド写真係をやってから早十年。とうとうメインの当番期が来てしまった。

さあ、どうやって同期の仲間と連絡をとり、一緒に手伝ってくれ仲間を集めるか。同じ職場のA君とともにY君に相談を持ちかけたところ、その悩みは解消した。彼の情報ネットワークは、在鉦の



仲間にとどまらず、札幌、東京にいる仲間にも延びており、その深さは恋愛・結婚遍歴等々にも及ぶべき凄さなのである。というわけで、頼もしいY君に同期の代表を引き受けてもらい、本番に向け準備をしている次第である。

ところで、今年のメインイベントは、同期のプロマジシャンT君によるマジックショーである。実は私は彼とは中学校以来の友人である。ろくに勉強もしないのに理数科に進み、このままだけは医者か弁護士にでもなるのかと思いきや、何と趣味の奇術を本業にして

しまった個性派である。テレビ等でも活躍し、今や弟子を持つまでになっている。どうか当日は彼の華麗なマジックをご堪能いただくとともに、我が母校が多方面で優れた人材を輩出していることを改めて実感してほしい。

最後になるが、一昨年亡くなった同期のS君のことを書きたい。彼とは同じ職場であり大学も同窓であるが、私ばかりでなく彼を知る人は皆、彼の人への思いやり、仲間を想う気持ちを筆舌に尽くし難いほど感じていたと思う。今回の同窓会の準備も彼がいたら、あれもやろう、これはこうしよう、と皆を引っ張っていつてくれたに違いない。

S君はいないが、今回の機会が出来るだけ多くの仲間が元気に再会できる場となるよう微力ながら頑張りたい。



これあれ昔今券会

今年の東京支部は6月21日に、総会費七千円、年会費二千円で開かれた。札幌支部も7月5日に三百人を集めて催された。

親会は二千円の会券を配布して例年の如く8月第二日曜に開催す。

46年前に釧中26期の岡野政広氏が同窓会名簿を作成し、同窓生の所在が分かってきた。

早速に湖陵高図書館の寄付集めに名簿は利用され、ついでに同窓会総会をニユー東宝で開くことに。

会券の発売はなく、当日受付けで千円の現金を払えば貸切のキャバレーで昼日に飲み放題だ。

当番は湖陵一期が、現金の入りが、現金の入り次第にオリエンタルパートの「おが和」へツマミを買いに走った。会場費と酒代は後日に先輩方が仕末する。まあ釧中同窓生の黄金時代だ。また市議選にあたり小冊子の広告と寄付でまかなった。金の担当は釧中21期小船井武次郎兄貴様が自腹を切ってくれた感じが

なめない。広告といっても小冊子の残った大半を焼却したほろ苦い記憶が強い。

当番期のローテーションが順調に回転し始めた頃、市内の各高校同窓会総会も開かれた。

千円会費と寄付では無理、会券二千円に値上げを釧中29期中村衛会長が断行して現在に至る。それさえも二百万円以上の会券売上は、千人超。「寄付のつもり」で購入して貰ったこと。変則的な各支部の総会費をみても分かる。売れない新聞、雑誌の広告とりは恥しい。「くまざさ」も始動のときは広告代をお願いして歩いた。今は親会より支出して戴いている。総会当日の冊子の広告も、「完全に集金しなさい」との女性の厳命で例年の広告主先輩方を訪れる。各期の幹事へ会券も配布し徴収する。毎期とも頑張つて余剰金を残し会館維持費へ廻す。

再び30年振りの断行をどの当番期がなさるのか？同窓会館建設資金の方法などからみて、変更することのむつかしさは火をみるよりあきらめ。

寄付でも会券でも責任を押しつけられた各期幹事らの苦勞の種なのだから。

今後の英断ある行動に期待する。
（奥田達也）

奥田達也(釧高1期)の

誠愛勇から

釧中33期・湖陵2期の巻

差別、事大を嫌うも多士済済

せいせい

あの敗戦・釧中二年生・上級生の権威に鉄拳を受け、朝鮮人への虐待を見た。それ故に差別を嫌う。事大主義を否定する。そんな33期・湖陵2期生で両角靖二釧路商工会議所会頭、長内宏釧路市医師会会長、木内周治初代釧路町商工会長、音楽家の佐藤昌之や小町昭ら。

戦後の在学中は小生意気で、社会人になつては、紳士然と誇り高き人々よ。

12年前に本紙24号で「青春譜・湖陵ヶ丘」24として後藤史郎の「勤労作業」を載せた。

2期生の高橋映司、花井哲雄幹事より同期誌「笹ノ児」一号から十号までを拝借し三篇を抜粋し全篇からダイジェストし紹介する。

憧れの釧中入学、すでに下級生への暴力行為が日常化していた。敗色濃い昭和20年4月、学徒動員令で二年生までもが長期勤労作業へ駆り出され、兄貴分として四年生共々宿舎に入れられた。これが仇になる。終生忘れ得ぬ忌むしい記憶として。そこから強い団結のたくましい男らが誕生した、としても。

麦は踏まれて育つ

「室田浩志、奥田達也先輩はゼロ期生で私らが中川塾二期生です」

両角靖二、後藤史郎、高木直樹、長内宏、数寄芳郎、木村久弥、北村藤一郎らは誇る。花の釧中33期とも。

結して最後の一兵までもしくも忘れ得ぬ 西春別勤労作業

川塾一期生・花の33期生の誇り

重い金網を積みトロツコで

金網の簡易滑走路を創るため、重い金網をトロツコに積んで運搬する作業は、各トロツコ毎に五、六人で班を編成し、呼吸を合わせて脱線の防止に努めたが、バツタのように空を飛んだものもある。スコップを使いモッコもかついだ。

軍部の動力燃料として木炭の生産作業もする。炭焼きの小父さんに炭窯の造り方から手解きを受けた。

近くの小川のせせらぎの音を耳にしながらのテント生活は不快なもの。空腹に耐えかねて、生の山芋を食べて下痢に苦しむ者が続



勤労作業場を訪ねて

出し、採食禁止命令さえ出る。

そんな忌まわしい思い出を、懐かしみもした(藤野敏郎、小川利行、小林勤、後藤史郎、土田実、阿部寿哉、川口章悦、石田亘、数寄芳郎)

白糠の暗渠排水工事や津別の松下工場勤労奉仕を語る(小野武、浅里芳直、長内宏、太田靖雄、佐藤泰弘) 援農作業で上級生がいなかった(山田哲夫、石田亘)

青春を共にした友。いまは追悼する友輩さえ夢に生きて在り、70歳代を彩っているのだ。

麦は踏まれて育つ、と。

今秋、弟周治の一周忌に帰釧し市民文化会館で最後のリサイタルをステファアーノ木内が開く。



釧中33期・湖陵2期卒業50周年記念 平成12年10月8日

青春のひびき

小林 勤

逃げたぞ！追え、一目散に逃げ
る豚。追いこむ少年達。豚も必死。
遂に寮の縁の下「ラッパを鳴らせ」
「ラッパを鳴らせ」おどろく豚を

やつとりおさえる。その夜の食
事は豚汁。皮のついた豚肉、そこ
まではないが皮に毛の残った角切
りとあつて食欲を失う。しかし食
べなければ……。これが学生時代
勤労働員で味わった我々の生活の
ひとこまである。

勤労働員時代の先輩は実におそ
句で野次つたりして、キレた先
生が授業を放棄したのを呼び戻
し、吊るし上げた。

先生にも気の毒でしたが、試験
は全員白紙を出したため、その
学期はみな成績を下げ、優秀な
仲間たちにエライ迷惑をかけた
ことは慚愧にたえない。
物理も同じだったが、クラス
五十数名が一人の脱落者もなく

強い団結ピカ一

反抗記(より抜粋) 永田 哲朗

中学四年A組の時は英語の先
生と物理の先生をポイコットし
てしまった。あの頃は教師不足
で、大学出たての経験のない代
用教員が来ていた。それでなく
とも出来の悪い私には全然つい
ていけない。

「先生、あまり早うてわからん
けれ。もちつとゆるゆるやつて
もらえんかなもし」と「坊ちゃ
ん」に出てくる悪たれと同じ文

白紙を出したんだから、これは
今思えばエライこつちや。
『私事！高3のとき、試験は全
員白紙を出す、と決めたのに、
結局私一人だけ。二学期「不可」
となった。只一人だから。次期
百点とつたが「三学期は年の平
均だとて良」その成績表は大学
受験合否に響いた。団結の強さ
を二期生にみる私の私見であ
る』

ろしくどん欲で下級生をおしのけ
ても食欲をみたそうとした。
私は幸か不幸か炊事係であつ
た。炊事係は上級生の指導のもと、
下級生が主に仕事に当つた。当時
ご飯といえば大豆のひきわりが主
でその上にむした乾燥米をいれ時
間をまつ。しかしその間に盗まれ
る対策として釜に電気を流す。盗

人(上級生)の驚きを、ものかけ
から「ざまあみろ」とながめてい
たものだ。
また副食にかかさず出たものに
沢庵漬があつた。直径三〜四米位、
高さ六米位あつた大きな樽に梯子
をかけてのぼっていつてとる。
これが我々下級生の楽しい反抗
の時であつた。梯子の下でどなる

上級生に「まだとれないのです」
といて上級生の悪口を力いっぱ
いいえる時間と場所であつた。
糠くさい樽の中が唯一の憩の場
であつたとは今の学生には想像も
できないであろう。
食卓にのぼる沢庵をみるたびに
思い出し、過ぎし日の青春を懐か
しむ。

青春譜・湖陵ヶ丘

市民大運動会の思い出

高橋 貢

平成12年10月、湖陵卒業50年を
記念して、阿寒、ウトロと旅行し
たが、聞名寺で物故者の追悼を終
えて湖陵跡地から湖陵高校と長内
副会長のガイドで行き、その後、
城山の市民運動場の跡地を通つた
訳ですが、50年振りに見る運動場
は草ぼうぼう原っぱになつてい
るを見て、懐かしさと寂しさが交
互にこみあげてきました。

ですが、戻つて来たユニフォーム
の胸のマークをみて吃驚しました。
湖陵の文字が青くなつてい
ます。どうしたのかと思つてよく
見ると青ペンで「頑張つて」「好
きよ」とか色んな文字がビッシリ
と書いてあるのです。我々は喜ぶ
と同時に勇躍して頑張る事を誓つ
たものでした。

最後の八百米リレーがやつて来ま
した。両校の応援団はいやが上にも
盛り上がり、一走二走と順調に
走つて来ました。私は最終走者と
して、三走からのバトンを来るの
を待つていました。
その時、三走が相手に触れてバ
トンを落としてしまったのです。
拾つてすぐ走り出しましたが、

時は今から50年前、毎年6月に
行われた市民大運動会、湖陵の街
中が空っぽになる様なお祭りです
た。皆が楽しみにしていました。
私達、陸上競技部も、勿論参加
して、工業高校をライバルとして
競つた訳ですが、女子高校に、エ
ビ茶のユニフォームに黄色の湖高
のマークを縫いつけてもらったの

希望は、この同期会を最後の一
兵になる迄続けて欲しい事です。
私は現在名古屋に居住しており
ますが、最後は湖陵で終わり度
いと思つております。それ迄頑張り
ます。全員元気に長生きしましよ
う。拙文で失礼します。

立派なテラーを目指して



釧路信用金庫阿寒湖畔支店

桶屋 美久

平成十五年三月卒業（湖陵五五期）

釧路信用金庫に入庫し、阿寒湖畔支店に配属になってから三ヶ月がたちました。

入庫前研修は本店で行われ、テキストで業務内容、対応の仕方、マナーなどを学習しました。おじぎの仕方一つとっても厳しく指導され、社会の厳しさを実感しました。

初出勤の日、とにかく不安でいっぱいだった私を温かく迎えてくださり、一気に緊張が解けたのを印象深く覚えています。

私はすぐにテラー係として窓口に座りました。テラー係は主に、お客様のさまざまな預金の事務処理をしたり、セールスもします。初めは、右も左もわからずお客様と応対し、先輩に教わりながら必死にメモをとってノートを作り、ノートを見ながら仕事を覚えていきました。学生の頃よりは覚える量はずつと少ないはずですが、時間に余裕がないことや自分の行動に常に責任を求められる点で、学生の頃とは大きく違います。私がミスをした時は何もできず、先輩

が色々と処理をしてくださっているのをただ見ているだけでしたがミスをすると本当に大変だなと思いました。全員で助け合い、緊張して仕事をしていなければ、みんなに迷惑をかけ、余計な時間を費やすことになってしまいうからです。

今もまだまだ不慣れな部分が多く、毎日が勉強です。けれども、毎日が充実しています。よい先輩に囲まれ、窓口で日々色々な方と出会っておしゃべりをしたり、親しくなれることが、とてもうれしいことです。

私にとってテラーは、人生のよき舞台だと考えています。もちろん、私の対応の仕方一つで信用金庫のよしあしを決めてしまうというプレッシャーもあります。けれどもテラーの仕事を通じて色々経験を積み、心の財産を増やしたいと思っています。立派なテラー、すばらしい女性を目指してこれからも明るく、元気よく「いらっしやいませ」「ありがとうございました」といい続けていきたいです。

生 業 卒 する 活躍 活

消防士になって



釧路市消防署西方面本部大楽毛支所勤務

及川 節

平成十四年三月卒業（湖陵五四期）

ぼくは、高校三年生の時に、一度、中学生の時から夢だった消防士になるために、公務員試験を受験しましたが、失敗しました。

しかし、消防士になりたいという夢を諦められず、公務員試験の勉強をするために、札幌で一年間浪人をしました。合格するために勉強をし、いろいろな不安もありましたが、無事合格できた時は本当に嬉しかった事を覚えています。

そして、今年の四月から、消防士として働きだして、早いもので三ヶ月がたちました。

最初、僕が考えていた消防士とは、主に消火活動を行い人を救う仕事という事くらいしか知りませんでした。

しかし、単に消火活動を行うといっても、消火活動を行うための知識がなくてはいけないというのはあたり前なのですが、その他に消防では、あまり関係ないと思っていた事務的なことも、山ほどあり、覚えるのも大変で、本当に毎日が訓練と勉強の日々です。

消防士になり、右も左も全く分からなかった僕に、優しく丁寧に訓練や、仕事を、職場の先輩方に教えて頂けたので、職場の雰囲気にも慣れ、毎日が大変充実しています。

学生の時は、僕と同じくらいの年齢の人達だけで、似たような考え方を持った友達の中で過ごしてきましたが、社会人となり、色々な年齢の人達の色々な考え方を持つ人達と、接するようになり、新しい事を吸収していく事ができ、僕自身の視野が広がり、住んでいる世界も広がってきていて、就職してよかったと思っています。

高校生のみなさんも、これから、色々な人達と出会い、それぞれの試験をしていくと思いますが、自分や、自分の近くにいる人達だけの考え方の枠だけではなく、たくさん人の良い考えなどを学んでいってほしいと思います。

僕も、これから、まだまだ学ぶことばかりですが、少しずつでも大きくなっていけるように頑張っていきたいと思っています。

学園だより '03

ことしの活動を振り返って

同窓生の皆さまいかがお過ごしですか。

「くまざさ」四三号発刊に当たり、昨年夏からの学校の様子を簡単にお伝えします。

学校五日制が完全実施され、それに伴う二学期制と五五分授業もようやく定着してまいりました。

完全に休業になった土曜日におこなわれている月二回程度の講習も、たとえば学年の壁を取り払うなどさらに発展充実され、生徒も自己の進路実現のため真剣に取り組んでいます。

八月からの概略を振り返ってみます。

〈八月〉

・茨城県で行われた全国高校総体に、陸上競技部とハンドボール部女子が出場しました。

・湖陵祭。夏休み最後の八月におこなわれる最後の湖陵祭です。平成一五年度からは夏休み前の七月におこなわれます。

〈九月〉

・創立九〇周年記念式典がおこなわれました。式典と祝賀会の様子は「くまざさ」四二号に詳しく特集されていますので、どうぞご覧下さい。

・第二回定期テスト

ましたから、高校総体と併せて全道三冠ということになります。

・二年生見学旅行（本州方面）

・第三回定期テスト

〈十一月〉

・センター試験。二四七名の生徒

放送局が五部門で最優秀賞

〈十月〉

・運動部の新人戦や団体予選、文化部の高文連大会が一〇月頃から始まり二月頃まで続きます。

全道大会に進出した部は、アイスホッケー部・弓道部女子・剣道部・サッカー部・柔道部女子・ソフトテニス部・テニス部・バスケ部・ハンドボール部女子・バドミントン部男子・ハンドボール部女子・野球部・陸上部・化学部・演劇部・合唱部・器楽部・新聞局・放送局です。特にハンドボール部女子は国体道予選に優勝し選抜北・北海道大会でも優勝し

55回卒業生の最終決定人数 (人)

	男子	女子	合計
国立大学	42	36	78
私立大学	26	46	72
準大学	2	0	2
国立短大	0	2	2
私立短大	1	11	12
専修学校	6	28	34
公務員就職	2	7	9
民間就職	0	0	0
浪人	56	36	92
合計	141	172	313

が受験しました。これは在籍生徒の七九%に相当します。

〈二月〉

・第四回定期テスト

〈三月〉

・第五回卒業式 三十三人の生徒が湖陵の誇りと夢を胸に、学窓を巣立ってゆきました。

・八人の教職員が異動・退職しました。湖陵高校のために力を尽くしていただき、どうもありがとうございました。

・七名の新任教職員を迎えました。

・平成一五年度入学式（新入生三二三名）

〈四月〉

・平成一五年度入学式（新入生三二三名）

・宿泊研修（一年生、川湯温泉）

〈五月〉

・教育実習（二〇名の卒業生を迎えました）

・高体連剣根支部予選始まる。（団体および個人で全道大会に進出したクラブは陸上・ハンドボール・バレーボール・バスケットボール・サッカー・バドミ

サッカー高校総体の道代表に

インターハイ

することになりました。

以上簡単な内容となりましたが、ご容赦下さい。また、今後とも母校のため、後輩のためによりしくお願ひします。

文責・渋谷倫之

〈六月〉

・高体連全道大会始まる（全道大会においては各クラブともよく健闘しました。特にサッカー部は全道準優勝という快挙を成し遂げ、八月に長崎県で行われる高校総体に北海道代表として出場します。他にもハンドボール女子が全道準優勝、柔道女子とテニス男子が全道ベスト8と活躍しました。また文化部では、放送局がNHK杯のテレビドキュメント部門で全国大会に出場

千五百万円超の同窓会館追加寄付 90周年記念会も千万円弱の収入

事務局だより

オブジェといわれる同窓会館の追加寄付は佐藤文昭会計長ら役員、各期毎に会合を開いて奔走の結果、目標の千五百万円を超える収入であった。

年金生活の釧中生も歴代会長らは累計数百万円、数万円を寄付した卒業生など、非協力の期があった他は、涙ぐましい協力をみた。

前号の推移にあるようにいろいろなつまづきも、残債に再度の寄付依頼に現れた結果を喜びをもって報告することができ嬉しい。



また90周年記念事業の大成功は葎本正美歯科医が多忙の中、奔走し千万円弱の募金を集めた。
講師の竹下義樹弁護



士へ50万円の支払など四百万円の支出で押さえ五百万円を会館維持費その他へ残してくれた。

「盲目でも聴衆の生徒さん方の熱心な態度が胸に響き、

私自身が感動できました」
そう竹下講師が喜んでくれたことは金だけでなく熱き心の交流であったのだ。

金が物という世相では勿論あるが、苦難があった同窓会館建設資金も90周年記念会も、高い授業料負の財産が生かされたこの半年間の出来事なのである。

修祓式

これらのけじめをつけて、6月18日正午から同窓会館に同窓生30人が出席し修祓式が行われた。
湖陵高27期で釧路八

幡神社の渡部候司宮司がお払い神事を司る。

佐藤文昭

会計長の司会により、玉串を野村秀明校長、久本甫同窓会長、鈴木豊治同窓会館建設事業



実行委員長、黒坂博釧中28期、上岡信明同30期、松島良治同31期、さらに遠藤隆吉同窓会副会長と同窓生一同が奉てんした。

「これから活用し、50年後に良かったと喜ばれるよう残したい」と久本会長の挨拶で乾杯。土産を戴き、初めて入館の人は見学し修祓式を終了した。

同窓会寄付集計表を載せる？

ようやく終えた同窓会館の寄付金を各期ごとに集計表として本紙44号に掲載しようか迷っている。再度の寄付依頼も目標額をこえた。各期ごとの努力が見える。寄付はしたが領収書、お礼も各人にはない。せめて母校の各期の様子を知るよすがとしても発表をしては？と。みなさんの意見をお寄せ下さい。
(奥田達也)

編集後記

三月二十日開戦の英米対イラク戦争があつてなく終わつたと思つたら新型肺炎(SARS)の脅威にさらされた今年前半。デフレ経済なのに医療費などの負担が四月から増え財布は軽く気分は重い。

釧路では外来大型スーパーが老舗をつぶして去つた後は、コンビニエンスストアの台頭もあつて地元問屋が相次いで消失。そんな中、この春「釧路ラーメン」(河村哲也事務局長「湖陵十九期」)が北海道遺産(北海道ラーメン札幌・旭川・函館)の認定を受けたたり村井茂「湖陵十八期」根室支庁長就任は明るいニュース。

古里を離れて身にしみる古里の有り難さと魅力、古里への期待。本日の同窓会総会が古里釧路の魅力再発見の場になれば大成功。

本紙四三号一頁を見事な絵で飾り絵筆も文筆も冴える二刀流の達人増子正樹氏を編集委員に迎え益々充実の陣容。同窓生諸兄諸姉からの投稿(文・写真)を歓迎します。なお①投稿者は題名・職業・勤務先・卒業年・連絡先を明記し正面を向いた顔写真を添えてください。②原稿文中の人名は苗字名前(フリガナ)を明記下さい。③原稿に加除筆する場合もあります。④都合により次号に載せる場合があります。⑤寄せられた原稿・写真は返却しません。⑥宛て先は別記「くまざき編集委員会」まで。
(田巻恒利)



(写真右から)
上岡信明・増子正樹・奥田達也
佐藤文昭・渋谷倫之・田巻恒利

くまざき編集委員会

〒〇八五〇〇一四

釧路市末広町二丁目四 栄屋旅館内

TEL (〇一五四) 二二二〇二四一

FAX (〇一五四) 二二二〇二四二

- 同窓会長 久本 甫(湖陵7期)
- 同窓会幹事長 関口政司(湖陵10期)
- 同窓会会計長 佐藤文昭(湖陵22期)
- 編集委員長 奥田達也(湖陵1期)
- 編集委員 渋谷倫之(湖陵26期)
- 編集委員 増子正樹(湖陵20期)
- 編集顧問 上岡信明(釧中30期)
- 編集事務局長 田巻恒利(湖陵18期)